

## 尾瀬の思い出

内藤 真理子

我が家のテレビの「百名山」の番組に尾瀬の景色が映っている。それを見て、傍らの本棚の隅に飾ってある古い写真に目が行った。至仏山を背景に尾瀬ヶ原で撮ったものだ。尾瀬の思い出が次々に頭に浮かんだ。

最初に行ったのは新婚間もない頃だった。

会津田島から入って、松枝岐の国民宿舎に泊まり、翌早朝から燧岳（ひうちだけ）に登った。東北で一番高い山だというが、辛かったとか苦しかったという思いはもう忘却の彼方。だが頂上まで行き、下まで降りて来て再び登り始めたのがきつかったのを覚えている。

これは三条の滝に行くための登りで、行き着いた先には豪快な滝が轟々と流れ落ちていた。

これが三条の滝なのだ。今までのどんな滝より迫力があつた。疲れなど吹き飛んでしまった。

その時は尾瀬ヶ原には行かず東京に帰り、翌日産婦人科に行った。妊娠五ヶ月だった。

次に尾瀬に行ったのは、長男が無事生まれ、やっと歩き始めた頃だった。

駐車場に車を預け、尾瀬沼の入り口から尾瀬に入った。藪の道を少し登ったら、急にさあぐつと視界が開け、尾瀬沼まで一望できた。

変かもしれないが、まるでゴルフ場のようだと思った。まったく自然の景色なのに、まるで人工的に造られたように整っていて、隙が無く、ただ美しかった。こんな景色を見るのは初めてだと思った。

「きれいでちゅね」と、前を歩いている、夫の背負子に夫と背中合わせに乗りながら足をブラブラさせているご機嫌な長男におどけて言った。

キヤッキヤツと喜んでいる。「あなたがお腹の中にいる時には、あの山の天辺まで登ったのよ」と、燧岳を指さした。無謀だったと周囲の矚蹙を買ったことはこの際、伏せて置こう。

その後も尾瀬のあの美しい景色が見たくて何度も行った。

人生の終わりに近づいて振り返ってみれば、尾瀬は余程縁のある場所だったのだろうとテレビを見ながらつくづく思った。